

R6年度

摂津市市民活動中間支援体制整備支援事業

報告書

2025年3月31日

事業受託者:NPO法人 市民ネットすいた

市民活動支援における 社会的背景と課題に向けた摂津市の対策

社会的背景

- **ライフスタイル等の変化**
 - ・ 少子高齢化や核家族化、単身世帯の増加など社会構造の変化や、ライフスタイル・価値観の多様化
→自治会・町会等の地域コミュニティ希薄化傾向
 - ・ 複雑化する地域課題→行政だけでは対応困難、NPOの動きが活発化
- **新型コロナウイルスの影響**
 - ・ 長期間の活動制限→NPO団体や市民団体の活動の停滞/休止/停止、ノウハウの継承が出来ていない
- **孤独・孤立対策推進法(R5,5月成立)**
 - ・ ライフスタイル等の変化の上に、新型コロナウイルスの影響を受け、孤独/孤立の課題がより一層顕在化した
→参加の器であり、地域のつながりづくりを担うNPO団体や市民活動団体の活動への期待が高まっている

課題

- **市民公益活動への十分な支援不足**
 - ・ 市民活動支援に特化した拠点の必要性が問われている
→公益活動団体へ伴走型の手厚い支援体制を整備し、市民公益活動の活性化が必要
- **自治会加入率の低下**
 - ・ 自治会加入率は年々減少傾向にある →自治会活性化策の検討が必要
- **まちづくり参画者の世代の偏り**
 - ・ まちづくりに参画する市民は高齢者に偏りがちである →若い世代の巻き込み/取り込みが必要

摂津市の対策(検証)

- **市民活動中間支援体制整備支援事業**
 - ・ 近隣他市で実績のある中間支援組織に業務委託
→講座や相談、伴走支援を通して、その必要性や本市にふさわしい支援のあり方を検証する

中間支援の役割と業務

中間支援とは

協働を推進する上で、市民と市民、市民と行政、行政と企業などの間に立って、そのパイプ役として中立的な立場で、それぞれの活動を支援するものである。組織が持つ、ノウハウやネットワーク、情報などを活用した中間支援業務を行う組織として、今後のまちづくりにおいてその機能と役割が各所で期待されている。

役割と業務

➤ 中立的な立場でのコーディネート

- ・ 市民と市民、市民と行政などの間に立って、中立的な立場から適切な判断と指導力を持ってコーディネート役を担う。
- ・ 地域の活動や市民公益活動などの情報収集や提供を行う。

➤ 市民公益活動団体の組織基盤の強化

- ・ 市民のまちづくりに対する取り組みを育成する。
- ・ 活動継続のための組織基盤の強化を支援する。
- ・ 自らの役割を広く市民に周知し、市民の支援を得て主体的な仲介者として活動する。

➤ 人材育成

- ・ 協働の担い手となる人材の育成に積極的に関わり、市民のまちづくりへの参画意識や機運の高揚を図るなど、協働を推進するための基盤づくりを行い、テーマ型のNPO等による市民公益活動や地縁型のコミュニティ活動を支援する。

➤ 共に学ぶ

- ・ 変動する社会的ニーズに対応できるよう、一人でも多くの市民がまちづくりに理解を示し、参加意識を高めるための学習の場を開く。
- ・ 行政ならびに中間支援組織がより高度な専門的知識を備え、さまざまな課題についての対処能力を持った支援組織となるため、共に学び向上する。

➤ 相談

- ・ 市民や行政側からの協働事業の提案などに関して、同事業を促進する立場で相談を受け付け、中立な立場で実現に至る方向を共に検討していく。
- ・ 団体の個別の課題解決に向けて、必要に応じて伴走支援やケース検討に取り組む。

➤ 協働の推進役

- ・ 多様な市民公益活動団体が協働に参画しやすい場の提供、機会づくりなど積極的に関わり。
- ・ 中間支援組織相互の情報共有、ネットワーク化を図る。
- ・ 中間支援機能を高め、協働を推進する役割を担う支援体制の確立を行う。

R6年度摂津市市民活動 中間支援体制整備支援事業

目的

摂津市では市民公益活動団体への中間支援を行う団体が存在しないことから、講座や伴走型の支援を通じて、その必要性や本市にふさわしい支援の在り方を検証する。

概要

- (1)講座と交流会による市民公益活動の促進、地域人材の育成、ボランティアの創出
- (2)相談対応と伴走支援による市民公益活動団体の基盤整備
- (3)WEBによる情報発信
- (4)事業報告会の実施及び事業報告書の作成

R6年度スケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
①学びあいカフェ			●		●						●	●
②居場所サミット								●				
③相談対応・伴走支援	4月～随時											
事業報告書作成						●						●

同事業実施報告

①「学びあいカフェ」-1

学びあいカフェ～多様な地域人財の育ちの場～

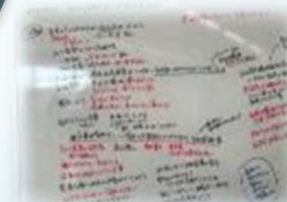
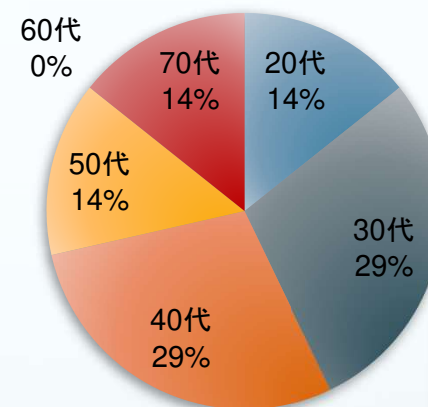
機能と役割：【人材育成】【共に学ぶ】【協働の推進役】【中立的な立場でのコーディネート】

内容：毎回異なるテーマを設定し、各テーマに沿った活動をしている団体や、課題意識を持った個人を対象とした参加型の講座/交流会。

告知方法：市報、摂津市イベントナビ、チラシ、シティライフなど。

タイトル	「子どもの居場所あれこれ」
テーマ	子どもの居場所
目的	こどもの居場所に携る方や興味のある方の情報交換と交流の場とし、今後の活動促進を目的とする。
対象者	こどもの居場所に携る方や興味のある方
内容	上述の方々の紹介、市内の「子どもの居場所」に関する現状把握、活動しておられる方の課題の共有やこれから始められる方からの質疑応答など。
協力・連携	・ こども政策課 ・ 子ども食堂ネットワーク
開催日時	R6年6月12日(水)10:00～12:00
場所	摂津市立別府コミュニティセンター
総参加人数	10名 ※CNSスタッフ除く。
参加者の声 ※アンケートから一部抜粋	・ 同じ目標、志を持った人が集まって話を出来たのは、とても有意義な時間だった。 ・ 横のつながりができた→中間支援の大切さを感じた。 ・ 資金や活動場所の話が聞きたい。 ・ 活動の不安感の共有がしたい。

参加者年代別割合

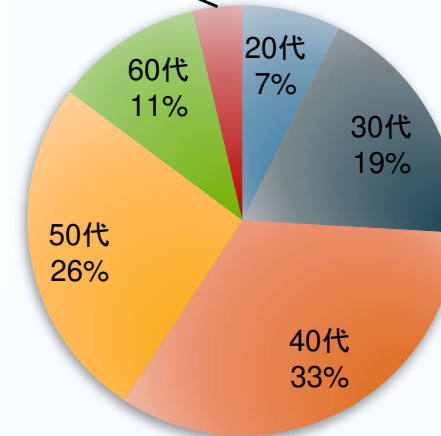


同事業実施報告

①「学びあいカフェ」-2

タイトル	「ソーシャル納涼会」
テーマ	就労世代の社会貢献や地域貢献・活動
目的	就労世代を主な対象とし、これから新しく地域活動に参加する人や企業の掘り起こしと、新たな地域活動の方法を模索/検討するきっかけ作りを目的とする。
対象者	地域貢献・地域活動に興味のある方
内容	1部: ゲストスピーカによる就労世代の社会貢献、地域貢献/活動経験の共有、質疑応答など。 2部: 参加者同士の情報交換と交流。
協力・連携	・ 学校教育課 ・ 社会福祉協議会 ・ 商工会 ・ 認定NPO法人サービスグラント
開催日時	R6年8月30日(金) 1部: 19:00～20:30、2部: 20:30～22:30
場所	Danke(千里丘1-12-32)
参加人数	31名 ※CNSスタッフ除く。
参加者の声 ※アンケートから一部抜粋	・ 本当に色々な価値観に触れることができた。 ・ 考える時間を持つことができた。 ・ 新しい情報、新しい人脈を得ることができた。 ・ 地域貢献に積極的な人が多いことを知れて良かった。 ・ 自治会活動の在り方を知りたい。 ・ 不登校児の学校以外の社会性を学べる場を知りたい。

参加者年代別割合

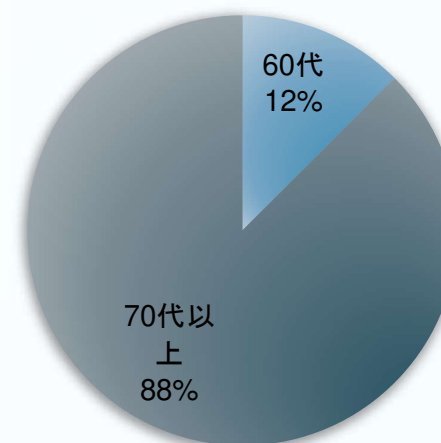


同事業実施報告

①「学びあいカフェ」-3

タイトル	「摂津の高齢者の居場所の今日このごろ」
テーマ	高齢者の居場所
目的	高齢者の居場所(「つどい場」や「リハサロン」)に携る方の情報交換と交流の場とし、今後の活動の活性化や促進を目的とする。
対象者	高齢者の居場所に携る方
内容	ゲストスピーカーによる高齢者の居場所の事例紹介や運営団体ごとの活動紹介、情報共有や意見交換など。
協力・連携	・ 高齢介護課 ・ 保健福祉課 ・ 社会福祉協議会
開催日時	R7年2月25日(火)13:00～15:00
場所	新鳥飼公民館
参加人数	14名 ※CNSスタッフ除く。
参加者の声 ※アンケートから一部抜粋	・ 集会場の事業が少しわかった。 ・ 皆様の話を聞いて良かったです。 ・ 高齢者(寝たきり等)への対応が知りたい。 ・ 鳥飼でもっと勉強会をしてほしい。 ・ 鳥飼地域でも交流会が必要と思われる。

参加者年代別割合

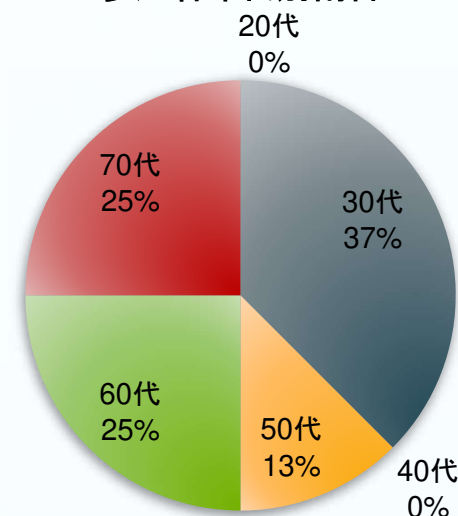


同事業実施報告

①「学びあいカフェ」-4

タイトル	「基礎から学ぶ 市民公益活動 活動資金調達講座」
テーマ	資金調達
目的	市民公益活動における資金調達についての情報を提供し、同活動の活性化や持続可能な活動への支援を目的とする。
対象者	市民公益活動における資金調達について学びたい方
内容	講師による市民公益活動の資金調達方法などについての座学、質疑応答など。
協力・連携	・ NPO法人 場とつながりの研究センター
開催日時	R7年3月14日(金)19:00～20:30
場所	摂津市立コミュニティプラザ
参加人数	11名 ※CNSスタッフ除く。
参加者の声 ※アンケートから一部抜粋	・ 求めている情報を得ることができて満足している。良い情報をありがとうございました。 ・ 資金調達はお金だけでなく、人との繋がりで団体にとってプラスになることがたくさんあると感じました。 ・ 初めて知ることも多かつたし、勇気ももらえました。 ・ 現在、助成金のプレゼンの準備中なのでヒントになりました。

参加者年代別割合



同事業実施報告

②「居場所サミット」

居場所サミット～多様な地域人財の育ちの場～

機能と役割：【人材育成】【共に学ぶ】【協働の推進役】【中立的な立場でのコーディネート】

内容：“居場所”を大きなテーマに設定し、“居場所”づくりをしている実践者の方や同テーマに興味・関心がある方を対象とした参加型の講座/交流会。

告知方法：市報、摂津市イベントナビ、チラシ、シティライフなど。

「居場所サミット」の狙い：

- 1) 摂津市市民の自発的な参画(同サミットの実行委員会)
- 2) 各分野(子ども、高齢者、多文化共生、事業者×地域貢献)での分科会の開催
- 3) 今後の摂津市のまちづくりを見据えた基盤構築(市内・市内・他市とのネットワーク作り)

■ 摂津市市民を中心とする実行委員会によるサミット開催準備

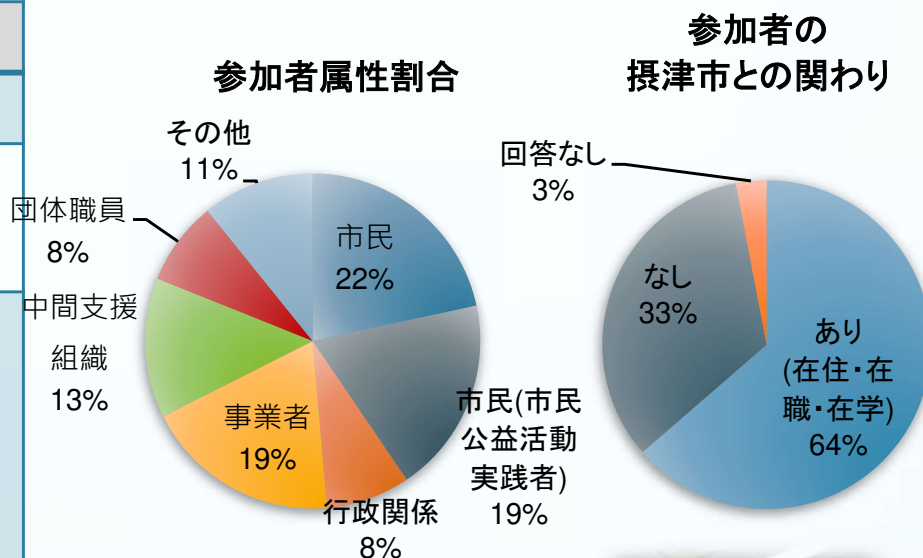
サミット実行委員会(企画・運営メンバー)	
構成人数	13名
所属	・NPO(分野:子ども、高齢者、多文化) ・事業者 ・中間支援組織
年齢	20代～70代

サミット実行委員会によるサミット開催準備	
会議	・作戦会議(全体) ・分科会会議(分野毎 計4分野)
実施回数, 参加人数	・作戦会議(対面:3回, 延36名) ・子ども分科会会議(対面1回、ハイブリッド:1回, 延13名) ・高齢者分科会会議(対面:1回、ハイブリッド:1回, 延9名) ・多文化共生分科会会議(対面:1回、オンライン3回, 延21名) ・地域貢献×事業者分科会会議(オンライン3回, 延16名)
その他	全体のグループLINEと各分科会毎のグループLINEを作成 →日常的な協議や情報・資料の共有に利用

同事業実施報告

②「居場所サミット」-全体

タイトル	「せつつ居場所サミット」
テーマ	居場所
目的	居場所づくりに携る方や興味・関心のある方への情報提供/交換と交流の場とし、既存の活動の活性化や新規活動の促進を目的とする。
内容	1部: 講演 ゲストスピーカによる居場所づくり活動経験談、質疑応答。 2部: 分科会 各分野(子ども、高齢者、多文化共生、事業者)毎の現状把握や情報/意見交換、交流など。
協力・連携	- 学校教育課 - 高齢介護課 - 社会福祉協議会 - 国際交流協会 - 出産育児課 - 生涯学習課 - 子ども食堂ネットワーク - 商工会 - JOCA
開催日時	R6年11月17日(日)13:00～16:00
場所	摂津市立コミュニティプラザ
総参加人数	61名
参加者の声	※アンケートから一部抜粋 - 居場所づくりの活動内容だけでなく、そこに至るまでの経緯や資金調達等のお話が聞けて良かった。 - 居場所の多様化を感じた。



同事業実施報告

②「居場所サミット」-分科会

分科会① タイトル	「子どもの成長に応じた居場所のあり方を考える」
テーマ	子どもの居場所
目的	「子どもの居場所」に携る方や興味・関心のある方への情報提供/交換と交流の場とし、既存の活動の活性化や新規活動の促進を目的とする。
内容	グループワークを中心に「子どもの居場所」に関する現状把握や情報/意見交換、交流
参加人数	14名 ※運営スタッフ含。
参加者の声	※アンケートから一部抜粋 ・ 居場所に対する課題やそれに対応する機関について様々な意見を聞くことが出来て、とても勉強になった。 ・ たくさんの情報をもらえた。

分科会② タイトル	「私(わたし)が本当に欲しい居場所とは」
テーマ	高齢者の居場所
目的	多数存在する「高齢者の居場所」。自分自身が参加したいと考える居場所の形を考え話すことでこれまでの固定概念の払拭や、今後の活動のヒントを得ることを目的とする。
内容	フィッシュボーンを用いたグループワークでテーマを掘り下げ意見交換、交流
参加人数	9名 ※運営スタッフ含。
参加者の声	※アンケートから一部抜粋 ・ 摂津市で実際に活動をしている方の“生”の声が聞けて、貴重な経験であった。 ・ 活発な意見交換があり、参考になった。生きがい、自立心を養う取組や支援者のサポート姿勢の工夫の必要性も再認識しました。

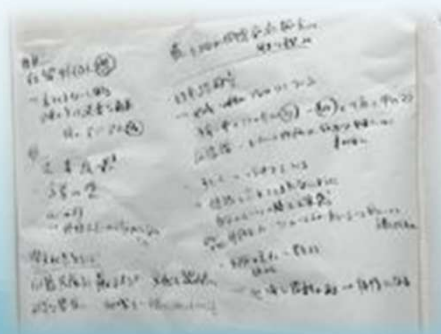


同事業実施報告

②「居場所サミット」-分科会

分科会③ タイトル	「まちづくりから考える多文化共生」
テーマ	多文化共生の居場所
目的	年々増え続ける在日外国人。日本の「多文化共生」に関する知識を得、参加者同士の意見交換を通して、“自分に出来ること”“次の具体的な行動”を見つけるきっかけとなることを目的とする。
内容	講師による座学(現状把握)、参加者同士の交流や情報/意見交換、交流
参加人数	10名※運営スタッフ含。
参加者の声	※アンケートから一部抜粋 ・ 外国人のおかれた状況をわかりやすく説明して頂いた。 ・ 今後の活動に役立ちそうです。

分科会④ タイトル	「企業が作る地域の居場所って？」
テーマ	事業者がつくる居場所
目的	「事業者×地域貢献」に携る方や興味・関心のある方が集い、事業者が取組む地域貢献について共に考えることで、今後のアイデアの発掘や、次に繋がるきっかけ(例:コラボ)作りの場となることを目的とする。
内容	ゲストスピーカーとファシリテーターでの対談形式で、「事業者×地域貢献」を深堀りとマッチングボード活用による繋がり(コラボ)作り。
参加人数	16名※運営スタッフ含。
参加者の声	※アンケートから一部抜粋 ・ 各活動団体からの相互的なお話が聞けて良かった。 ・ 事業と地域貢献のバランス感を模索しながら活動されている事業者さんが身近におかれることを知れた。

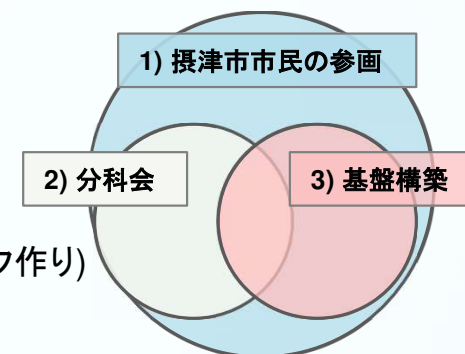


同事業実施報告

②「居場所サミット」-成果《狙い別》

「居場所サミット」の狙い:

- 1) 摂津市市民の自発的な参画(同サミットの実行委員会)
- 2) 各分野(子ども、高齢者、多文化共生、事業者×地域貢献)での分科会の開催
- 3) 今後の摂津市のまちづくりを見据えた基盤構築(市内・庁内・他市とのネットワーク作り)



狙い	成果
1) 摂津市市民の自発的な参画	- 摂津市市民を中心とした「居場所サミット」実行委員会(企画・運営)が発足 →本事業「学びあいカフェ」の実施を通して、地域の各分野(子ども、高齢者、多文化共生、事業者)に関心や課題意識を持っている市民が繋がり、自発的に「居場所サミット」の企画・運営に携わった(企画・運営メンバー:13名)。 - 新規市民公益活動団体の立ち上げ →「居場所サミット」企画・運営メンバーによる新規任意団体(1件)が立ち上った。
2) 各分野での分科会の開催	「居場所」に関する興味・関心の高さとニーズの把握 →当日のアンケートにより表面化 - 各分野(子ども、高齢者、多文化共生、事業者)毎のニーズや課題の整理 →各分野毎の分科会にてマッピング作成し、ニーズや課題を可視化 - 参加者同士によるコラボ企画立案 →各分野(子ども、高齢者、多文化共生、事業者)毎での交流により、具体的な企画へ発展した(1件)。 - 市民公益活動の仲間づくりの実現 →「居場所サミット」の参加をきっかけに市民公益活動の仲間づくりに成功(1件)
2)3) ※重複部分	- 既存市民公益活動団体/活動の情報収集と整理 →企画・運営メンバーによる子どもの居場所に関するマップ制作、居場所サミット参加者からの情報による居場所マップ制作など - 市民公益活動に携わっている、もしくは関心のある方々のニーズの把握 →アンケート集計による分析

同事業実施報告

②「居場所サミット」-成果《狙い別》

狙い	成果
3) 今後の摂津市のまちづくりを見据えた基盤構築	• 摂津市における市民公益活動団体の繋がり強化 →「居場所サミット」企画・運営を通して、市内の活動分野が異なる市民公益活動団体(計7団体)が協働した。 • 市内の複数の関連機関へ協力依頼、そして連携へ →協力依頼訪問先:社会福祉協議会(2回)、商工会(3回)、国際交流協会(2回)、JOCA(2回)、子ども食堂ネットワーク(1回)など 協力・連携内容:各機関から当サミットの周知協力、上述機関の職員によるゲストスピーカとしての参加や聴講参加、当日の各団体のリーフレット配架 など • 摂津市内の多様な方による参加 →市民公益活動実践者、市民公益活動を始めたい方、事業者 など • 市内の複数の部署(多分野)への協力依頼と連携※重層的支援の視点を含む →協力依頼訪問先:自治振興課、学校教育課、高齢福祉課、出産育児課、生涯学習課 協力・連携内容:各部署から当サミットの周知協力、複数部署からの参加、サミット後日の市民公益活動実践者と行政の仲介事例(1件) • 他市の中間支援組織に対し、本事業と本サミットの周知と協力依頼、そして連携へ →周知・協力依頼先:8市:豊中市、茨木市、高槻市、大阪市、箕面市、池田市、吹田市、三田市 協力・連携内容:4市の中間支援組織メンバーの参加 (NPO法人とよなかESDネットワーク、NPO法人いばらき市民活動推進ネット、NPO法人市民活動フォーラムみのお、認定NPO法人サービスグラント)、 継続的なネットワーク作り (2月:NPO法人みのお市民活動センター訪問、 3月:NPO法人場とつながりの研究センター 理事・事務局長を学びあいカフェの講師に招聘)

同事業実施報告

③「相談対応・伴走支援」

「相談対応・伴走支援」

機能と役割：【相談】【市民公益活動団体の組織基盤の強化】

内容：学びあいカフェを始めとする講座/交流会の実施後に個別の相談を掘り上げ、専門化を含めた課題解決に向けた細やかな伴走支援とその後の団体の変化を掴む。

告知方法：ぶっちゃけトーク会や学びあいカフェにて告知、チラシなど。

「相談対応・伴走支援」

実施期間	R6,4,1～R7,3,31	相談件数	計21件			
相談時期	相談内容	支援項目	相談者属性	活動分野	状態	
6月	「子ども食堂」をやりたいが場所が見つからない。	#立ち上げ支援 #活動場所 #マッチング	個人	子ども	(継続)	
6月	現事業(地域共生食堂)を持続可能にするための資金調達方法と法人格取得について。	#資金 #チームビルディング #法人設立支援	団体	地域	(完了)	
6月	「子ども食堂」の会場として自治会が管理している集会場を利用できるかについて。	#活動場所 #連携 #マッチング	団体	子ども	(継続)	
6月	子育て中の親を中心としたイベントを開催するにあたり、行政の後援名義を受けたい。	#連携	団体	子ども、 親支援	(完了)	
6月	親子国際交流イベントの開催についてどのように進めたらよいのか教えてほしい。	#立ち上げ支援 #連携 #協働 #活動場所 #資金	個人	子ども、 多文化	(継続)	
6月	高齢者や障がい者を対象とした介護保険外サービス事業の立ち上げを見据えて、情報収集と人脈づくりがしたい。	#立ち上げ支援 #情報提供 #仲介	個人	高齢者、 障がい	(継続)	
7月	現事業(託児)の資金繰りについて。	#資金 #運営	団体	子ども	(完了)	
7月	公共施設の貸室の稼働率をあげたい。	#連携 #活動場所 #マッチング	事業者	地域	(継続)	

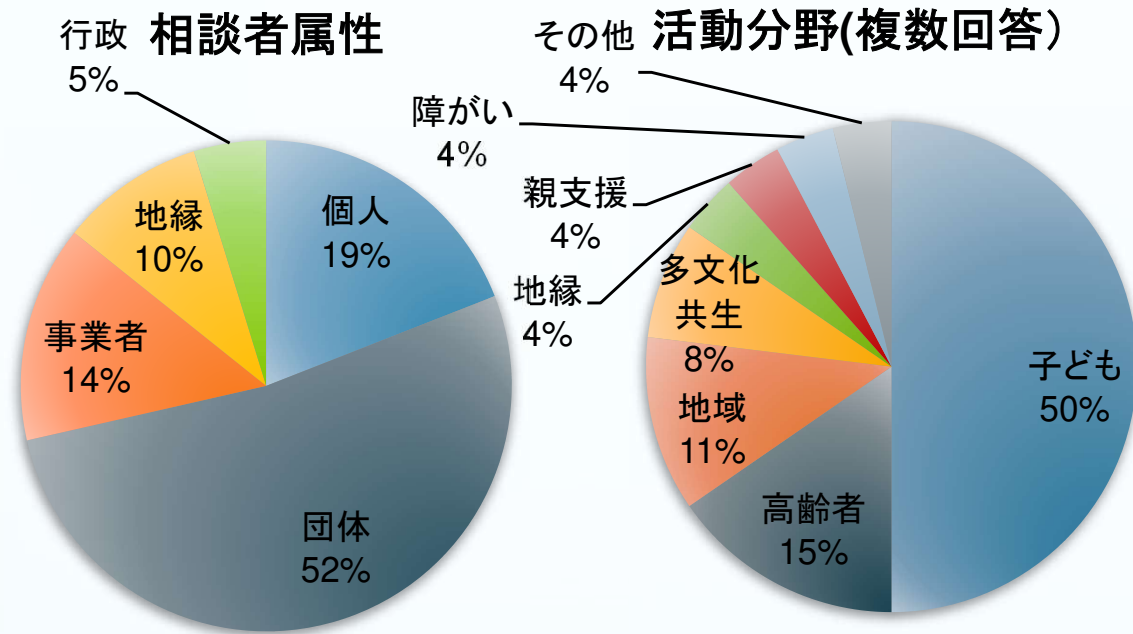
同事業実施報告

③「相談対応・伴走支援」

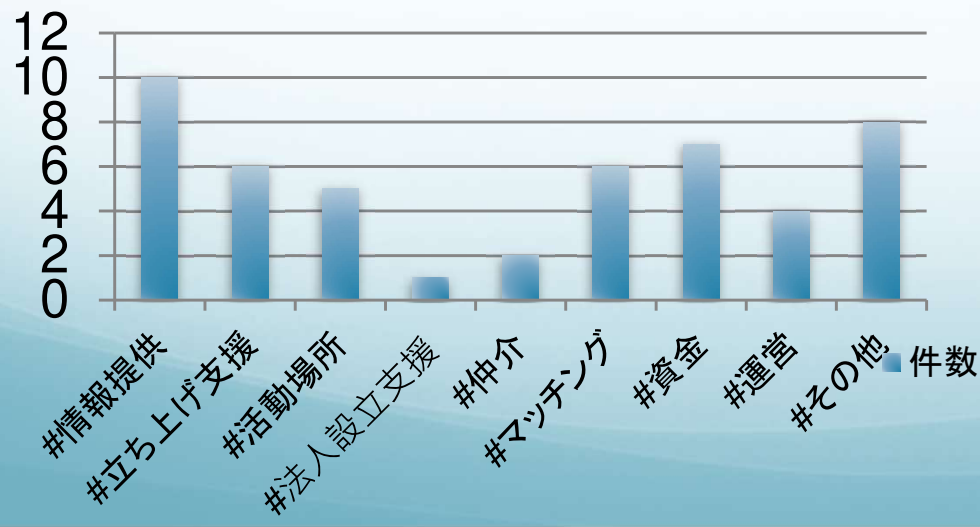
相談時期	相談内容	支援項目	相談者属性	活動分野	状態
9月	オンラインで放課後の子どもの居場所作りに取り組むための仲間作りをしたいので、方法を教えてほしい。	#立ち上げ支援 #情報提供 #マッチング	個人	子ども	(完了)
10月	行政からNPO法人化に向けての準備物や流れは教えてもらったが、自団体に合った法人格の選択、組織化について教えてほしい。	#立ち上げ支援 #情報提供	団体	子ども	(完了)
11月	市民活動に関する情報収集をしたい。担当部署を紹介してほしい。	#情報提供 #仲介	団体	多文化	(完了)
11月	公益事業に関する資金調達について	#資金 #情報提供	事業者	子ども	(完了)
12月	NPO法人で働く場合、給与は出るのか。無償のイメージがあるが、給与が出ている事例を知りたい。	#情報提供	行政	その他	(完了)
1月	市民公益補助金事業の申請書の書き方について。	#立ち上げ支援 #資金 #運営	団体	高齢者	(完了)
1月	「子ども食堂」をする場所を探したい。	#活動場所 #連携 #マッチング	団体	子ども	(完了)
1月	「子ども食堂」を収益化して収入を得たい。ボランティアでは続けられないが活動は続けたい。収入を得る方法はあるのか。	#資金 #情報提供	地縁	子ども	(完了)
1月	資金調達の方法について知りたい。	#資金 #運営	団体	子ども	(継続)
1月	新規事業の立ち上げの目処がついたので、地域活性化に関する意見交換や今後の地域での連携の可能性について相談したい。	#情報提供 #連携 #マッチング	事業者	子ども	(完了)
1月	自治会に若い世代が入ってこない。他市での事例を参考にしたいので教えてほしい。	#情報提供	地縁	地縁	(完了)
1月	団体の世代交代が進まない。引き継ぐための準備は進めているが、どう動けば良いのか。	#運営	団体	地域、 高齢者、 子ども	(継続)
3月	補助金のプレゼンの仕方について	#情報提供	団体	高齢者	(完了)

同事業実施報告

③「相談対応・伴走支援」-内容の傾向



支援項目(複数回答)



- 相談者の属性は、個人や市民公益活動団体、事業者と様々である。
- 相談者の活動分野は多様であり、また複数分野にわたる活動も見られる。
(例:親子国際交流イベント
→「子ども」「多文化」)
- スタートアップ以前の段階(情報収集がしたい)～継続・発展支援(NPO法人設立)に至るまで、相談者の活動ステージは幅広く、相談内容(支援項目)也多岐にわたる。
- 相談内容は、情報提供のみの1回で完了する場合もあるが、長期的支援を要する相談案件が約1/3を占める。
(継続案件:21件中7件)
- 常設の相談窓口が無いにも関わらず、相談件数が21件に上った。
(学びあいカフェ実施後、市民ネットすいたへのメールや電話、市民公益活動センターへの直接訪問にて相談を受ける)

同事業実施報告

①②③を通じた担い手育成・関係機関連携強化・ 市民公益活動伴走支援について(まとめ1)

	①「学びあいカフェ」計4回	②「居場所サミット」1回	③「相談対応・伴走支援」	
事前準備		・作戦会議:計3回,延36名 ・各分科会企画会議:計11回,延59名	相談件数	計 21 件
協力・連携先	(市内) ・こども政策課 ・学校教育課 ・高齢介護課 ・保健福祉課 ・社会福祉協議会 ・商工会 ・子ども食堂ネットワーク (市外) ・認定NPO法人サービスグラント ・NPO法人場とつながりの研究センター	(市内) ・自治振興課 ・学校教育課 ・高齢福祉課 ・出産育児課 ・生涯学習課 ・社会福祉協議会 ・商工会 ・国際交流協会 ・JOCA ・子ども食堂ネットワーク (市外) ・NPO法人とよなかESDネットワーク ・NPO法人いばらき市民活動推進ネット ・NPO法人市民活動フォーラムみのお ・認定NPO法人サービスグラント ・NPO法人スポイの会	照会先	(市内) ・国際交流協会 (市外) ・吹田市文化スポーツ推進室 ・Code for SUITA
当日参加者	延 76 名参加	65 名参加		
フォローアップ		・振り返り会:計2回,延21名		

同事業実施報告

①②③を通じた具体的な成果について(まとめ2)

- 市民公益活動団体の法人化： **1**件
- 市民公益活動団体の設立：**2**件
- R7年度摂津市市民公益活動補助金事業へ申請団体の増加： R6年度 **5**団体→ R7年度 **8**団体
- R7年度摂津市市民公益活動補助金事業への新規申請団体数：**4**件
- 市民公益活動団体立案・企画のイベント開催：**2**件
- 市民公益活動団体同士のマッチング：**2**件
- 行政と市民公益活動団体のマッチング：**2**件
- 庁内の協力/連携体制の強化： 計**7**課※自治振興課含
- 市内の関連機関/組織と協力/連携体制の強化： 計**5**機関
- 他市の間接支援組織とネットワークを構築：**8**市

これまでの本事業の実施から見えてきた 摂津市の課題とその原因/背景

属性			課題
《個人》	(市民公益活動経験)	a. なし	・ 地域課題や市民公益活動に興味関心がある人/やってみたい人のニーズや困り事、第一歩を掬い上げる機会(潜在的ニーズ→表面化/可視化する機会)がない。
		b. あり	・ 地域課題や市民公益活動に携わる人に寄り添う/一緒に考える人がいない。 ・ 市民公益活動に関する相談先がわからない/相談のハードルが高い。
		c. a, b共通	
《市民公益活動団体》			・ 各団体のフェーズに応じたサポート体制が存在しない(オーダーメイド型支援)。 ・ 各団体が独立型で活動しており、地域課題解決や持続可能性を目的とした有機的なネットワークが少ない(課題の共有、ノウハウの共有/継承) ・ 各団体で相互で学び会える環境が乏しい。 ・ 地縁団体(自治会など)の運営に対する支援がない。 ・ 市民公益活動に関する課題を整理(課題の社会化)するセクターが存在しない。
《行政/地域》			・ 市民公益活動団体との関係性構築や専門性の継承 ・ 分野を横断した市民公益活動団体の実態の把握 ・ 市民公益活動促進施策のアップデート

原因/背景	
◆ 新たな担い手の掘り起こしの難しさ ◆ 担い手の多様化 ◆ まちづくりや市民公益活動に対する意識/理解不足	◆ 地域課題の多様化 ◆ 担い手が求める支援ニーズの多様化 ◆ 各団体/セクターの連携不足

摂津市の強み

地縁団体(自治会など)

結束が強く、独自でユニークな取組みを行っている地縁団体が多数存在。

例) ・ 鳥飼わいわいガヤガヤ祭り ・ みしまつり ・ あじふスポーツフェスティバル など

既存のネットワーク

同じ目的で構成されている団体のネットワークの存在。

例) ・ 子ども食堂ネットワーク

多彩な交流会

市民、市民団体、事業者、行政と垣根を越えて交流できる交流会の存在。

例) ・ ぶっちゃけトーク会:令和元年度から開始。累計22回開催 延べ495名参加(R6.7月末現在)

※R2年度はコロナ禍で開催なし。

・ 文化情報交流サロン など

ビジネスサポートセンター

本センターを通じたCB/SB支援の仕組みがある。(摂津市が商工会に事業委託)

生産年齢人口の割合

生産年齢人口(15～64歳)は、53,789人。全体の62.33%に上る。(R7,1現在)

既存の社会資源

市内には公共施設が豊富に存在。コミプラや公民館、市立集会所など計57施設。

産業のまち

3,935の事業所があり、その約96%が中小企業(従業員50人未満)。

夜間よりも昼間の人口が多くなる街 (総務省「経済センサス(R3)」)。

摂津市の強みを更に生かすために今後、

1. 摂津市の協働のまちづくりにおける市民団体活動の意義を十分に理解し、
2. 長期的かつ多者間連携の視点を持ち合わせ、
3. 専門性を持って当事者(担い手や行政)のニーズや各々の活動フェーズに合わせた柔軟な支援ができるセクター(=中間支援組織)が必要である。

摂津市における 中間支援に対する理解(度)※協働研修より

市民、行政が中間支援に対して抱いているイメージ ※協働研修での市民・行政の実際の声

- 活動へのアドバイス
- 市民公益活動(自治会も含む)担い手の育成
- 人材育成
- 運営(継続のための、世代交代に向けて)の支援
- 団体の立ち上げ支援
- 相談窓口
- (補助金などの)手続きを教えてくれる
- コミュニティーの橋渡し(パイプ役、相談役)
- 市民と役所の橋渡し(パイプ役、相談役)
- 周知、広報の支援、情報発信
- 困り事を解決してくれる
- 補助金をもらえる
- 祭りなどの事務局

中間支援に対する理解

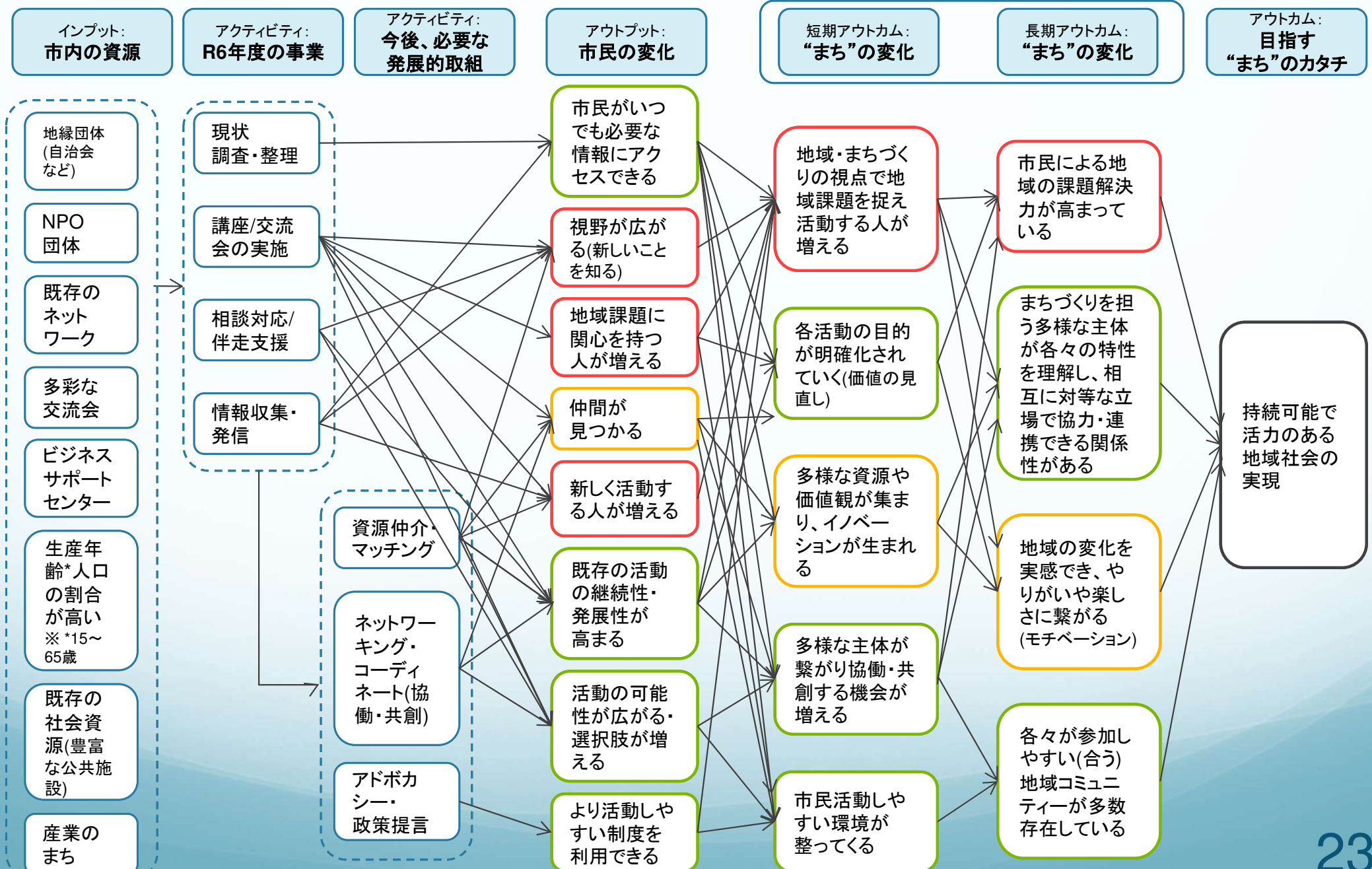
→市民・行政ともに、適切に中間支援の役割や機能への理解がなされていない可能性(上述、下線部参考)が考えられる。

協働のまちづくりの推進においては、多様な主体が、相互の特性を認識し、及び尊重しながら、対等な立場で連携し、又協力することが不可欠である*。よって、今後、継続して中間支援の存在意義や目的、役割や機能についても共に学んでいく機会が必要であると考える。

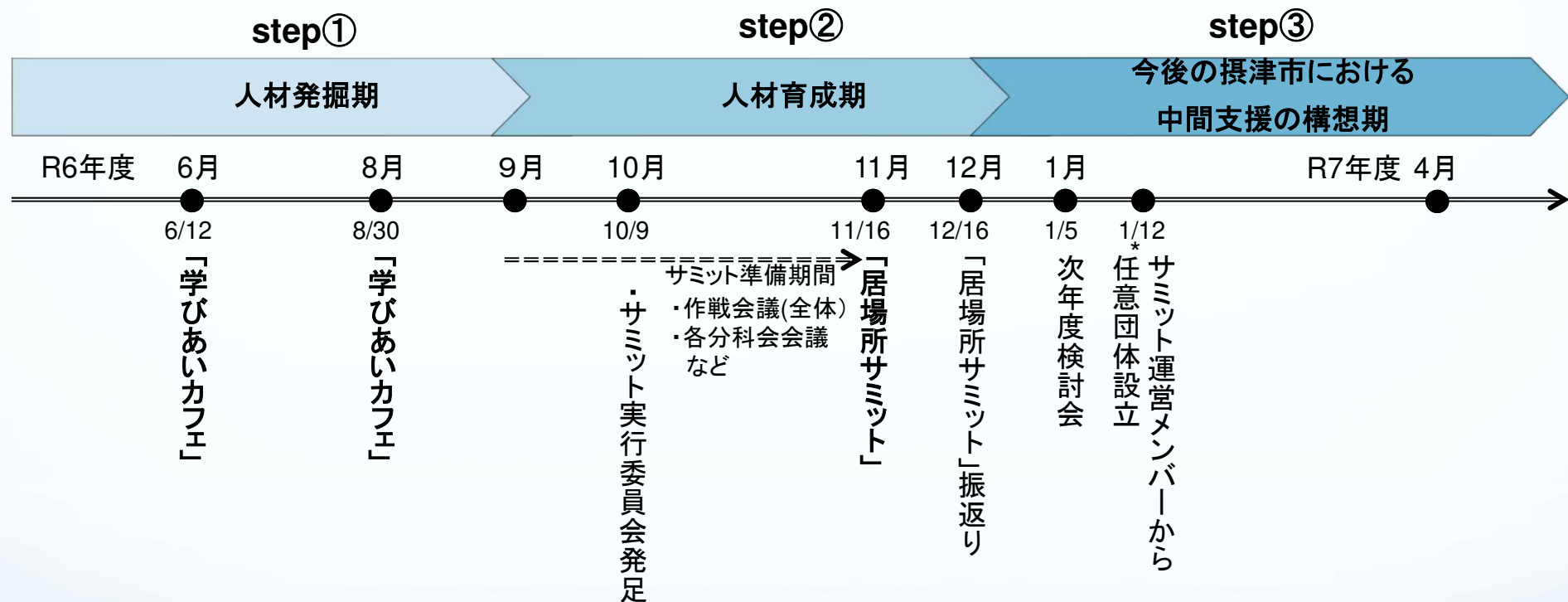
*参照: 摂津市協働のまちづくり推進条例

協働のまちづくりに必要な中間支援のロジックモデル

『人 (関心・意識、当事者意識) × 活動のしやすさ (環境: 情報、制度、資金、負担量) × 楽しさ・やりがい (個人、仲間)』



摂津市における 中間支援体制整備への動き



*任意団体

団体名	せつつプラス
設立目的	摂津市において市民活動がより円滑かつ活発になるような支援のあり方について、その必要性や役割を考察しながら活動を行うことにより、摂津の市民活動の活性化と地域の発展に寄与することを目的とする。
活動内容 (予定)	- 市民活動団体の交流会の開催 - 市民活動を支援している団体の活動内容の調査 - 居場所サミット(仮)の開催